

# 平成30年度 豊かなむらづくり全国表彰事業 東北ブロック受賞事例の概要

## 【農林水産大臣賞】

伝統的な農村景観の保全と活用をめざして

受賞団体：本寺地区地域づくり推進協議会（岩手県一関市）

### ◆むらづくりの背景・経緯

一関市は、盛岡市と仙台市の間地点に位置し、東北自動車道と新幹線の高速交通網が備わるなど立地的には恵まれた条件にあり、さらに観光資源も豊かな地域である。

本寺地区は、市街地から西方に約20km離れた山間に位置し、かつて「骨寺村」と呼ばれた中尊寺の経蔵別当の荘園であった。7つの集落により構成され、山に囲まれた平坦地には、水田を中心とした耕地が広がる典型的な中山間地域である。

平成15年度に、「平泉の文化遺産」の推薦遺産に骨寺村荘園遺跡が追加されたことを契機に、全戸加入による「本寺地区地域づくり推進協議会」を設立し、荘園遺跡と共存する活力ある地域づくりに取り組み始めた。

### ◆むらづくりの内容

#### ○農業生産面

荘園景観の保全と農地整備を両立し、生産性の向上を図り、自然乾燥等にこだわった「骨寺村荘園米」としてブランド化に取り組んでいるほか、骨寺荘園米オーナー制度を創設し、販路の拡大と収益性の向上を図っている。

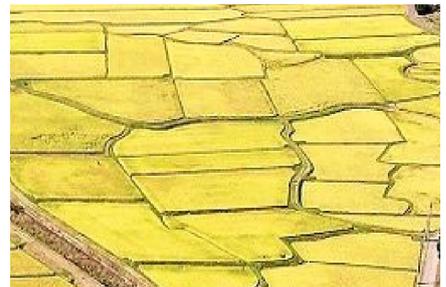
日本在来の鶴首カボチャの一種で糖度の高い「南部一郎カボチャ」の特産化に取り組み、年間10tを生産。形の良い7割は生食用、それ以外はペースト等に加工し、大手百貨店の通販等で販売している。

平成23年度に設置した「骨寺村荘園交流館」には、郷土料理レストラン、産直コーナーを併設し、女性部会会員が運営に関わっており、女性の所得向上とともに、地域経済の活性化を図っている。

#### ○生活・環境整備面

中世から続く農村景観を守り伝えていくため、土水路の維持管理について、建設業の関連団体と協定を結び、地域住民とともに、年2回の泥上げを実施している。

骨寺村荘園交流館を活動拠点として、季節ごとに地域行事を行い、住民同士の交流を積極的に行うとともに、大学生等との都市農村交流活動、教育旅行の受け入れ、中尊寺への米納めの伝統行事の復活や伝統芸能「鶏舞」の継承活動などに取り組んでいるほか、中学生を対象に、骨寺村荘園遺跡のボランティアガイドの養成事業を開始するなど、ふるさとを誇りに想う意識を高め、将来にわたって住み続けることを促す取り組みを行っている。



骨寺荘園の景観



都市農村交流活動の様子



伝統神楽「鶏舞」